

案内絵ハガキから見た貴重書展示会のイメージ（7）

## 日仏文化資料展示会 —「日本におけるフランス年」を記念して—

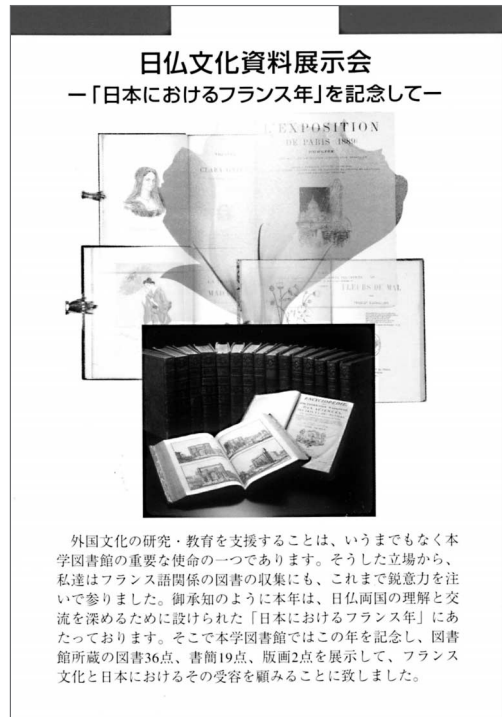
竹田 夏美



図書館の検索コーナーのすぐ隣の壁に、たくさんの絵ハガキが並んでいます。これらは本学の図書館が過去に開催した展示会の案内絵ハガキです。私はその中から『日仏文化資料展示会—「日本におけるフランス年」を記念して—』という案内絵ハガキについて触れてみたいと思います。

この展示会は平成10年（1998年）に開かれました。この時、私はまだ小学生で、10年後に京都外大でフランス語を勉強しているなんて夢にも思っていなかった頃です。ですからもちろん、実際にこの展示会を見ることはできなかったわけですが、先日、図書館のホームページから展示目録を見てみました。

まず、私がこの案内絵ハガキに興味を持ったのは、フランスについての展示会だったからという単純な理由です。目録を見ていると、フランス文学はもちろん、社会科学、語学についての本や百科全書、聖書なども展示されていました。どれも古く、貴重な本ばかりです。私は特にフランス文学に興味があるのですが、文学の本については、ほとんどがパリで出版された初版本や限定本でした。私は図書館がこんなにたくさん貴重な本を持っていることを3年次生の夏まで知りませんでした。夏のオープンキャンパスでの展示会で初めて知り、とても感動しました。フランス文学の中でも特に私が衝撃を受けたのは、エミール・ゾラの『獣人』という本です。もちろんこれもパリで出版された初版本なのですが、私が驚かされたのは、ゾラの署名入りだということです。実はオープンキャンパスの手伝いをした時に私はその署名を見ることができました。それは、ゾラから友人エデュアール・ベリイヤールという人に献呈されたもの



でした。正直、私は今までゾラにはあまり興味はなく、『獣人』という作品の存在すら知りませんでした。しかし、実際原書を自分の目で見たせいか、ゾラの作品もいつか読んでみたいという気持ちになりました。100年以上も前の人たちが手にした本…考えるだけで興奮します!! (笑)

展示されていた本を一冊ずつ紹介することはできませんでしたが、図書館ホームページのデジタル展示会に詳しい説明付きで図書館が所有しているたくさんの貴重書が紹介されているので、みなさんもぜひ一度ご覧ください。

ただだ なつみ（フランス語学科3年次生）